

前 金	部分払い
<input checked="" type="radio"/> 有 無	0 回

平成30年度下施排補第1号

藤方排水機場沈砂池設備(1号及び2号除塵機)改築工事

設 計 書

津市下水道局
下水道施設課

平成 30 年度 下施排補 第1号	工 事 設 計 書	局 長	
		局 次 長	
工 事 名	藤方排水機場沈砂池設備(1号及び2号除塵機)改築工事	課 長	
		検 算 者	
施 工 場 所	津市 藤方 地内	調 整 ・ 担 当 主 幹	
		担 当 主 幹	
設 計 金 額	¥ 一 (内消費税等相当額 円)	担 当 副 主 幹	
		主 担 査 当	
工 期	平成31年2月6日限り	設 計 者	
		工 事 の 大 要	
沈砂池設備 自動除塵機(水路巾3.1m×水路高さ2.0m)		一 式 2 基	

位置図

平成30年度下施排補第1号
藤方排水機場沈砂池設備
(1号及び2号除塵機) 改築工事



内 訳 表

費 目	工 種	種 別	細 別	数 量	単 位	単 価	金 額	摘 要
本工事費				1	式	——	——	
	機器費			1	式	——		明細表第 1 号のとおり
		直接工事費		1	式	——	——	
			輸送費	1	式	——		
			材料費	1	式	——		明細表第 2 号のとおり
			労務費	1	式	——		明細表第 3 号のとおり
			複合工	1	式	——		明細表第 4 号のとおり
			直接経費	1	式	——		明細表第 5 号のとおり
			仮設費	1	式	——		明細表第 6 号のとおり
		計 (直接工事費)						
		間接工事費		1	式	——		
			共通仮設費	1	式	——		明細表第 7 号のとおり
			現場管理費	1	式	——		
			据付間接費	1	式	——		
		計 (間接工事費)						
		計 (据付工事原価)						
	設計技術費			1	式			
	計 (工事原価)							

内 訳 表

費 目	工 種	種 別	細 別	数 量	単 位	単 価	金 額	摘 要
	一般管理費等			1	式	———		
	現場発生品控除			1	式	———▲		明細表第 8 号のとおり
	計 (工事価格)							
	消費税等相当額			1	式	———		
本業務工事費	計							

明 細 表

第 1 号

種 別	細 別	材 料	形状寸法	数量	単位	単 価	金 額	摘 要
機器費				1	式	——	——	
	自動除塵機	SUS304	3.1m×2.0m	2	基			
	計 (機器費)							

明細表

第 2 号

種 別	細 別	材 料	形状寸法	数量	単位	単 価	金 額	摘 要
材料費				1	式	——	——	
	電線類	EM 600V CE/F	3.5sq -4c	84.4	m			
	電線類	EM CEE/F	2.0sq -4c	60.0	m			
	電線類 付属材料			1	式	——		
	電線管類	HIVE	22mm	16.3	m			
	電線管類	HIVE	28mm	13.5	m			
	電線管類	HIVE	36mm	8.30	m			
	電線管類	FEP	40mm	6.82	m			
	電線管類	FEP	50mm	6.82	m			
	電線管 付属材料			1	式	——		
	プルボックス	300×300×200 完全防水SUS製		3	個			
	補助 材料費			1	式	——		
計 (材料費)								

明 細 表

第 3 号

種 別	細 別	材 料	形 状 寸 法	数 量	単 位	単 価	金 額	摘 要
労務費				1	式	—	—	
	一般労務費			1	式	—	—	
	普通作業員				人			
	設備機械工				人			
	電工				人			
	技術者				人			
	小計 (一般労務費)							
	機械設備据付労務費			1	式	—	—	
	機械設備据付工				人			
	小計 (機械設備据付労務費)							
	計 (労務費)							

津市設計書用紙

明細表

第 4 号

種別	細別	材料	形状寸法	数量	単位	単価	金額	摘要
複合工				1	式	——	——	
	構造物 とりこわし工			0.93	m ³			
	鉄筋工			31.5	kg			
	型枠工			4.92	m ²			
	コンクリート工			1.06	m ³			
	モルタル 仕上げ工			4.92	m ²			施工内訳第1号のとおり
	計							

津市設計書用紙

明 細 表

第 5 号

種 別	細 別	材 料	形状寸法	数 量	単 位	単 価	金 額	摘 要
直接経費				1	式	――	――	
	機械経費	クレーン運転経費(1)			日			
		クレーン運転経費(2)			日			
	軽微な機械器具損料			1	式	――		
	計 (直接経費)							

津市設計書用紙

明細表

第 6 号

種別	細別	材料	形状寸法	数量	単位	単価	金額	摘要
仮設費				1	式	—	—	
	止水工事			1	式			
	作業用 吊り仮設			1	式			
	水中ポンプ				日			
	水中ポンプ				日			
	エンジンウェルダー				日			
	仮設费率計上			1	式	—		
	計 (仮設費)							

明 細 表

第 7 号

種 別	細 別	材 料	形 状 寸 法	数 量	単 位	単 価	金 額	摘 要
共通仮設費				1	式	—	—	
	共通仮設费率計上			1	式	—		
	産業廃棄物処理費積上げ			1	式	—		
	計 (共通仮設費)							

明 細 表

第 8 号

種 別	細 別	材 料	形 状 寸 法	数 量	单 位	单 価	金 額	摘 要
現場発生品控除				1	式	——	——	
	除塵機	SS400		16.0	t			
	計 (現場発生品控除)							

施工内訳書

第 1 号

種 別	細 別	材 料	形状寸法	数量	単 位	単 価	金 額	摘 要
モルタル仕上げ工				1	m ²	—	—	
	モルタル	1:3		0.02	m ³			
	左官工			0.05	人			
	普通作業員			0.01	人			
	計 (モルタル仕上げ工)			1	式			

平成30年度下施排補第1号

藤方排水機場沈砂設備（1号及び2号除塵機）
改築工事

仕 様 書

津市下水道局
下水道施設課

第 1 章 一般共通事項

1 適用範囲

本仕様書は、津市が発注する機械・電気設備に係る工事及び修繕（以下、「工事等」という。）に適用する。

2 関係法令等に遵守

本仕様書において特に明記無き事項については三重県公共工事共通仕様書（三重県県土整備部公共事業運営課監修兼編集）に従い施工すること。

また、機器仕様に記載した事項のほか使用する機器及び材料等については、その性質、操作性等を十分考慮したものを使用し、工事等の施工にあつては関係法令、県・市条例、規則、規定及び規格等を遵守することとし、下記に示す関係法令、規格等については特に留意すること。

- (1) 労働安全衛生法
 - (2) 消防法
 - (3) 建設リサイクル法
 - (4) 電気事業法
 - (5) 電気用品安全法
 - (6) 電気技術規程（JEAC）〔内線規定〕〔高圧受電設備規程〕
 - (7) 建築基準法
 - (8) 計量法
 - (9) 日本工業規格（JIS）
 - (10) 日本電線工業会規格（JCS）
 - (11) 電気設備に関する技術基準を定める省令
 - (12) 電気学会電気規格調査会標準規格（JEC）
 - (13) 日本電機工業会標準（JEM）
 - (14)（機械・電気）設備工事一般仕様書、標準仕様書及び設備機械工事必携（地方共同法人日本下水道事業団）
 - (15)（機械・電気）設備工事共通仕様書（国土交通省大臣官房官庁営繕部）
 - (16) 揚排水ポンプ設備技術基準・同解説（一般社団法人河川ポンプ施設技術基準）
 - (17) ダム・堰施設技術基準（案）（一般社団法人ダム・堰施設技術協会）
 - (18) その他関係法令、条例及び規格、及び地方共同法人日本下水道事業団発刊基準類
- 上記の法律等は、全て適用するものの内容が競合等の重複する場合には協議をし決定する。

3 打ち合わせ

本工事等の請負契約締結後、すみやかに受注者は、本市監督員との打ち合わせ及び現場調査等を実施し、その施工内容を熟知すると共に、疑義があればこれを正し、受注者はその打ち合わせ内容についての議事録を作成し、記録等を整備するものとする。

4 環境配慮

受注者は、機器製作及び選定あるいは施工計画にあたり下記の事項について特に留意し、特に請負金額が750万円以上の場合にあつては、本市に建設副産物（スクラップ、コンクリート砕りガラ等）の再利用計画等について届けると共に、必要な書類を提出し、環境に配慮し施工しなければならない。

- (1) 騒音、振動の抑制
本工事等において使用する建設機械にあつては、排出ガス対策型建設機械指定要領に基づき国土交通省で指定された建設機械を使用するものとする。
なお、排出ガス対策型建設機械に代えて、国土交通省で認定された排出ガス浄化装置を装着した建設機械についても、排出ガス対策型と同等とみなすものとする。
- (2) 地下水のかん養（雨水浸透等）
- (3) 建設副産物の再利用（掘削残土の削減、現場内利用の促進、コンクリートガラ等の再利用促進、その他リサイクルの推進）
- (4) 廃棄物の適切な処分

(5)その他、機器選定等及び施工に係る省エネルギーの推進

5 承諾図書

受注者は、機器製作にあたり機器詳細仕様書、機器詳細図（製作機器及び購入機器の主要部品図、付属品図等を含む）、その他、必要な図書を本市に提出し、承認を受けるものとする。

6 軽微な変更

全て設計図書及び仕様書に基づき施工するものとして、これに明記なきもの、軽微な変更については、本市監督員の指示によるものとする。

7 器材・機器類の保管

受注者は、本工事等に必要な資材等の集積場所及び保管場所等について本市監督員の指示を受けて受注者の責任により管理すると共に、工事等の竣工引き渡しまでの器材・機器類等の保管、保護をしなければならない。

8 既設営造物の損傷、その復旧

受注者が既設の建築物及び構造物あるいはその設備、機器及び装置並びに備品等を破損、損傷または汚染した場合は、速やかに現状に復旧させると共にその費用の一切を受注者が負担する。

9 提出書類

提出書類は原則として三重県公共工事共通仕様書に記載するものの他、本市監督員の指示する必要な書類を提出するものとする。

なお、そのサイズは、指定なきものを除き原則全てA4版とする。

10 試験及び検査

(1)受注者は、機器及び材料の試験を行い、その成績書を本市監督員に提出し、承諾を受けるものとする。

(2)主要機器については、製作工場において本市監督員等の立ち会いのもとに諸試験を行うことがある。この場合、立会日の10日以前に必要な書類を添付のうえ、その試験、検査等について書面で申し出ること。

(3)機器、材料の検査及び試験のうち、公的またはこれに準ずる機関の発行した証明書等により、その成績が確認できるものについては、本市監督員の承諾のもとに省略することができる。なお、各試験、検査等は、受注者において必要な計器機器等を負担、準備し、実施しなければならない。また試験及び検査等に市監督員が立ち会わない場合は、その試験結果について写真、資料等を添付し本市監督員に報告すること。

(4)試験及び検査の結果、本市監督員等の承諾が得られず、工事等に使用することが不適當なものと判断された場合には、受注者は、いかなることがあっても使用してはならない。

11 機器製作及び現場施工の記録写真

(1)写真の分類

ア 着手前、現場施工状況及び完成写真（同一アングルにて撮影のこと）

イ 機器製作状況写真（機器製作手順による工事製作状況写真、既製標準品は除く）

ウ 現場施工写真（現場における施工状況写真）

エ 安全管理写真

オ 材料検収写真

カ 品質管理写真

キ 出来形管理写真

(2)写真の色彩、大きさ

カラー・サービスサイズ

(3)写真の撮影基準

ア 写真の撮影にあたっては、工事名、工種内容、測点等の必要な項目を記載した小黒板を被写体

と共に写し込むこと。

イ 不可視部分の写真整理

不可視になる出来形部分については、出来形寸法等が確認できるよう特に注意して撮影しなければならない。

12 施工管理

- (1) 請負金額500万円以上の工事等を受注または変更した場合、受注者は三重県公共工事共通仕様書「CORINSへの登録」に準じ「登録内容確認書」を監督員に提示しなければならない。
- (2) 受注者は、現場における工事開始と共に責任ある技術者を現地に常駐させ、工事等の期間中の危険防止対策を十分に行い、労働災害の防止に努めなければならない。
- (3) 受注者は、常に資材その他の整理整頓、清掃に努め、また工事等の完了に際しては、施工場所の後片付け、清掃等を実施すること。
- (4) 機器、資材等の搬入は、できるだけ通学通勤時間帯を避けるものとして、万一、この時間と重なる場合には、関係車両は付近の住民等、一般車両を優先しなければならない。
- (5) 受注者は、付近の住民あるいは工事等の作業員に対して事故等、災害が発生した時は、速やかに本市監督員に報告しなければならない。

13 竣工

(1) 施設等の受け渡し（引き渡し）

工事等の完了に伴う設備、機器、施設等の受け渡しは、本市のほか必要な関係官公庁署の試験、検査等に合格した後とする。

(2) 技術指導

完成施設等の使用に先立ち各機器の操作技術について講習会等を受注者の責任において実施し、必要な資料を提出すること。

(3) 保証

ア 保証期間は、完成検査合格後（引き渡しの日より）2年間とする。

イ 保証期間中に生じた施工及び材質あるいは構造上の欠陥による全ての破損及び故障等については、受注者の負担にて速やかに補修、改造または新品と交換を行わなければならない。

ウ 保証期間満了時には、受注者の担当技術者を派遣し、設置機器あるいは工事等の対象設備の点検及び整備を行わなければならない。

エ 保証書は、完成図書に綴じ込むものとする。

14 疑義

(1) 本仕様書及び添付図面等の内容についての不明な事項は、必ず本市監督員に照会し、説明を受けること。

(2) 施工中において、図面、仕様書、その他に疑義を生じた場合は、全て本市監督員の指示及び解釈による。

15 その他

(1) 本工事等の設計図書、仕様書に記載する一切の機材等は、全て受注者が調達するものとし、設計数量より多少増加したり、詳細にわたり明記されていない事項であっても工事等の性格上、当然必要なものについては、全て受注者の負担とする。

(2) 受注者は、工事等の施工にあたり特許権、その他第三者の権利の対象となっている機器、部材を設置または使用する時は、その設置及び使用に関する一切の責任を負うものとする。

(3) 設備機器等の維持管理上、必要な予備品、消耗品及び工具類については、その一覧表を本市監督員に提出し、承諾を受けた後、納入するものとする。

第2章 工事施工

1 工事概要

本工事は、藤方排水機場1号及び2号除塵機が老朽化により運転に支障をきたしていることから除塵機を更新し機能の回復を図ることを目的とするものである。

また、電気工事においては、1号、2号及び3号除塵機のケーブル撤去及び据付を行うこと。

2 工事範囲

- (1) 既設除塵機の撤去及び処分
- (2) 新設除塵機の製作及び設置
- (3) 1号、2号及び3号除塵機のケーブル撤去及び据付
- (4) 上記に記載する除塵機の工場試験、輸送、試運転
- (5) その他必要な工事

第1節 1, 2号除塵機

1 使用目的

流入した雨水中の浮遊物を阻止し、かき揚げることを目的とするものである。

2 機器仕様（新設）

- (1) 形式 背面降下前面掻揚式
- (2) 池寸法 水路巾3, 100mm×深さ2, 030mm
- (3) スクリーン 目幅40mm×有効巾2, 550mm×取付角度75°（参考）
- (4) 速度 約3m/min
- (5) 駆動装置 3.7kW（相当）×220V×60Hz
- (6) 台数 2基

3 機器仕様（既設）

- (1) 型式 間欠式自動除塵機
- (2) スクリーン 目幅40mm
- (3) 取付角度 75°
- (4) 掻揚速度 約7m/min
- (5) 駆動装置 3.7kW×220V×60Hz
- (6) 重量 8ton
- (7) 台数 2基

4 構造概要及び製作条件

- (1) 本装置の各強度は、十分な安全率をとるものとする。
- (2) チェーンの強度は、全負荷が片側に掛かったものとして計算する。
- (3) 装置各部の強度は十分あっても、腐食及び摩耗の恐れがある部分は肉厚を考慮する。
- (4) スクリーンの強度は、計画最高位水位において、スクリーン前後に1mの水位差が生じた場合においても支障のない構造とする。
- (5) 騒音及び異音に考慮した構造とすること。

5 各部構造

(1) 駆動装置

ア 駆動装置は、電動機直結サイクロン減速機または遊星歯車減速機等を使用し、駆動軸への

伝動は直結またはローラーチェーン掛けで行う。

- イ 駆動装置用減速機は、フレームカバーの外側に置き周囲に点検台を設けること。
- ウ 駆動用装置据付部には、伝動用ローラーチェーンの緊張用として、スライドできるベースを設けること。またローラーチェーンにはオフセット（2リンク分）を取り付ける。
- エ 伝動ローラーチェーン露出部には、ステンレス鋼製（エクスパンド等）にて点検・給油に便利な点検窓を設け、換気を考慮したカバーを取り付けること。
- オ 駆動装置の出力軸側スプロケットホイールの歯は、機械切りで、歯数は出力側で最小17枚、従動軸側はそれ以上とし歯面には熱処理を施した耐摩耗性に優れたものとする。
- カ 減速機が油潤滑の場合、減速機排油弁には、ビニルホース等の接続可能な短管を取り付け常時はキャップ止めしておく。
- キ 潤滑油の注油口及び廃油口とも、容易に交換できるように配置し、アダプタ等を特に必要としない構造とする。

(2) フレーム

- ア フレームはステンレス鋼板製（厚9mm以上）とし、溶接およびボルトで強固に組立、溶接歪、曲がり等ない構造とする。
- イ サイドフレームには、かき揚げ用チェーンのガイドレールを設け、しさのかき揚げ、排出が支障なく行われるよう構造的に十分考慮し製作する。
- ウ フレームにつけるレーキガイドレール（厚9mm以上）は、かき揚げ用チェーンローラが転動するガイド溝を設けたもので、サイドフレーム壁部に設置するものとする。レーキガイドは、かき揚げ側及び戻り側に設ける。
- エ フレーム上端部には、かき揚げ用チェーン緊張装置としてスクリュテークアップを設けるものとする。スクリュテークアップは、主軸軸受を摺動して調整するものとし、テークアップ用ねじは台形ネジとする。
- オ レーキガイド下部でのレーキがU字型チェーンガイドにて反転する際のチェーンに多少の緩みができても円滑に転動しU型チェーンガイドから離脱しないようにする。
- カ レーキガイドには、しさが付着しないよう十分考慮するものとする。
- キ シュートの清掃が容易に行えるように、必要な場合には清掃口を設け、作業台を取り付ける。
- ク 駆動軸のフレーム貫通部は、密閉措置を行う。

(3) エプロン

- ア レーキにて掻き揚げたしきは、スクリーン上端からのしさの落下位置までエプロンにて途中、落下停滞することなく、効率よく搬出できる構造とする。
- イ エプロンは鋼板（厚9mm以上）製で裏面に必要に応じて形鋼製支持材を設け、ひずみのないものでフレームに強固にとりつける。

(4) かき揚げ用チェーン、スプロケットホイール

- ア かき揚げ用チェーンはブッシュドローラーチェーン又はブッシュドチェーンとする。チェーンの強度は全負荷荷重が片側に掛けられた場合にも安全なものとし、保証（最低）破断強度は226kN以上でプレート、ローラー、ピンともステンレス鋼製としピッチは152.4mmとする。また容易に脱輪しない構造とする。
- イ かき揚げ用チェーンには、レーキ取付け用アタッチメントを組み込む。

ウ スプロケットホイールは、耐摩耗性の高いステンレス鋳鋼またはダクタイル鋳鉄製（歯前ステンレス製）とし歯数は11枚以上とする。

エ 下部にUチェーンガイドは、チェーンの進行を円滑に行える構造にするとともに、チェーンがはずれることのないよう十分考慮したものとする。

(5) 軸

主軸は機械構造用炭素鋼（S35C以上）の1本物とし十分な強度を有し、スプロケットホイールと軸はキーにて固定し、軸と軸受はスラストによって移動できないように強固に固定する。

(6) レーキ

ア レーキは、チェーンの全長にほぼ等間隔（約3.0m又はそれ以下）に取り付ける。

イ レーキの両側には、バースクリーンのピッチに適応したつめ切り、効率良くしさをかき取るとともにレーキが反転してしさを落とす構造とする。

ウ レーキは、特に強固な構造とし、かき取ったしさがこぼれないような構造とする。

(7) スクリーン

ア スクリーンは、平鋼（FB75×9以上）のゆがみを確実に取除き、平鋼が等間隔になるようスペーサをはさみ、両ねじの通しボルトにて組付け組立てること。

イ スクリーンは、支持用形鋼にボルトにて取り付けするものとし、支持用形鋼は両端を水路側壁にアンカーボルトにて固定すること。

ウ アンカーボルトは、躯体鉄筋に接合し、十分強度を有すること。

(8) 補助スクリーン

ア スクリーン下部はレーキの通過のため開口があり、これをカバーする為に除塵機下部に補助スクリーンを設けるものとする。

イ 補助スクリーンは固定式のものとし、水路にスクリーンと同様に固定すること。

ウ 仕様及び構造については（7）スクリーンに準ずる。

(9) 給油装置

ア かき揚げ装置各部の軸受には給油配管を設ける。

イ 給油方法は、原則として集中給油方式とし、給油は手動グリースポンプによるもので、必要数量の分配弁を設ける。グリースガンによる場合は、給油しやすい位置にグリースニップルを設けること。

ウ 給油口から各軸受けまでの配管は、分配弁の1次側をステンレス（SUS304、Sch40）、2次側は、水中部ステンレス管（SUS304、Sch40）、その他は被膜銅管（Cu-T）及び耐圧ゴムホースとする。

エ 配管は、必要箇所を堅固に支持固定し、支持材を防食処理する。テークアップ等移動する軸受にはできる限りフレキシブル管を使用する。

オ 池内配管は、フレームに収め、流木等による破損を防止する。

6 使用材料

(1) フレーム SUS304

(2) チェーン

ア 動力伝達用 特殊鋼

イ かき揚げ用 SUS304又はSUS403

- (3) スプロケットホイール
 - ア 動力伝達用 S 3 5 C 以上または F C D 6 0 0 以上
 - イ かき揚げ用 S C S 2 以上
- (4) 軸 S 3 5 C 以上または S U S 4 0 3 以上
- (5) レーキ S U S 3 0 4
- (6) スクリーン S U S 3 0 4
- (7) ボルト・ナット類 S U S 3 0 4

7 保護装置

- (1) 過負荷防止用減速機内蔵型トルクリミッタ
- (2) シャーピン

8 試験、検査

本設備、機器に係る検査は、機械設備工事一般仕様書及び機械設備工事必携に基づいて行うものとし、製作工場にて組立完成後、試験を行う。また、各作動時における電流値等の確認を行い、試運転報告書を提出すること。

9 塗装

本設備は、機器のステンレス製部分は酸洗いを行うものとし、無塗装とする。

10 据付

機械設備工事必携によるほか次の点に留意すること。

- (1) フレームとスクリーンは相対的な位置を十分考慮し、かき揚げ時にレーキとスクリーンの噛み合いに支障のないよう十分注意すること。
- (2) 除塵機据付部及び床面コンクリートスラブにそれぞれアンカーボルトにて強固に固定する。
- (3) フレーム及びスクリーンは指定された取付角度に据え付ける。
- (4) 据付け後、分解点検が容易にできるよう据付け時に考慮する。
- (5) 据付け及び撤去工事は1基ずつ行うこと。

11 撤去

本工事では、現場での撤去作業時には周辺環境に配慮し撤去材の飛散防止に努めること。

12 電気工事

本工事では、1号、2号及び3号各除塵機から除塵盤までの動力及び制御線の既設撤去及び新設を行うこと。

13 仮設

- (1) 大型揚重機械が使用困難な環境のため、機器等を搬入搬出する際は、安全かつ円滑に運搬できるよう仮設を設けること。
- (2) 止水については、角落し等を用いて行うこと。角落しの仕様はS Sとし、水圧に十分耐える強度の物を製作し除塵機前に設置すること。また除塵機の後止水については、藤方第二排水機場にある角落しを用いて止水すること。
- (3) 製作した角落しについては使用後、藤方第二排水機場に保管すること。
- (4) 吊り仮設は、作業用ステージ及び仮設構台を作り、養生シートで囲うこと。
- (5) 仮設規模（除塵機1基につき）

$$3.3\text{ m} \times 6\text{ m} \times 1\text{ 面} = 19.8\text{ m}^2$$

$$10\text{ m} \times 3.3\text{ m} \times 1\text{ 面} = 33.0\text{ m}^2$$

$$6\text{ m} \times 6.5\text{ m} \times 2\text{ 面} = 39.0\text{ m}^2$$

- 14 標準付属品
- (1) アンカーボルトナット (SUS) 一式
 - (2) 集中給油装置 一式
 - (3) その他必要なもの 一式
- 15 予備品
- (1) レーキ (アタッチメント共) 1組
 - (2) レーキガイドローラー 2組
 - (3) 油脂類
 - ア グリース 16 kg 1缶
 - イ ギヤオイル (必要な場合) 20ℓ 1缶
 - (4) シャーペン (機械油に浸したもの) 10本

第3章 特記事項

- 1 他工事等との協調
施工現場において他工事等と競合、輻輳する場合には、必ず本市監督員の指示を受け他工事等との協調を図り施工すること。
- 2 作業日時
作業日時は、土、日曜日、祝日を除く8時30分から17時までとする。時間外作業をするときは、本市監督員の承諾を得ること。
- 3 発生材の処分
工事等に伴った発生材等についての処分にあたっては特に留意し、工事等施工中はもとより施工完了後においてもその処分経過を明らかにしておくこと。
- 4 産業廃棄物税
本工事等には、産業廃棄物税相当分が計上されていないため、受注者が課税対象となった場合には完成年度の翌年度の4月1日から8月31日までの間に別に定める様式に産業廃棄物税納税証明書等を添付して当該修繕の発注者に対して支払請求を行うこと。なお、この期限を超えて請求することはできない。また、設計数量を超えて請求することはできない。
- 5 工事完成報告書
工事完成報告書の提出部数は2部とする。
- 6 完成図書
施工図及び取扱説明書等の完成に伴う完成図書は原則として3部作成するものとする。なお、作成にあつては本市監督員の指示に従うものとする。
- 7 安全管理
本工事施工にあたっては、近隣住民ならびに通行者等に支障なきよう十分配慮し、重量物の運搬時等は交通誘導員等の配置を行い、事期間中の安全確保に十分努めること。
- 8 巡回
当工事は、公共工事の品質確保の促進を図るものとして、検査課において施工状況の確認等を行う現場パトロールの対象となります。

9 現場施工の時期

本工事施工時期にあつては、本監督員と協議のうえ決定し、既存施設の機能をできるだけ損なわないように留意し施工すること。

特に、ポンプの機能を損なう施工は渇水期に実施することし、極力短期間で復旧できるように、工法・施工手順等について、十分本市監督員と協議すること。

第4章 支払いに関する事項

【前金の支払い】

請負代金の額が130万円以上の契約において、受注者が公共工事の前払金保証事業に関する法律に規定する保証事業会社の保証を明示した場合で、市が必要と認めたときは、請負金額の10分の4以内で、かつ当該支出予算の範囲内で前払いするものとする。

第5章 工事施工監理に関する事項

【部分下請負通知書】

受注者は、工事等の一部分について下請負させる場合は、部分下請負通知書を監督員に提出するものとする。なお、下請負業者（再下請負業者も含む）との契約書等の写し、下請負業者（再下請負業者も含む）の建設業の許可の写し及び主任技術者等の資格者証の写し等を添付するものとする。

【現場の管理】

受注者は、監理技術者、主任技術者（下請負を含む）及び元請負の専門技術者（専任している場合のみ）に、工事現場内において、工事等名、工期、顔写真、所属会社名及び社印の入った名札を着用させるものとする。

<名札の一例>

主任・監理技術者	
写真 2cm×3cm 程度	氏名 ○○ ○○
	工事名 ○○修繕
	工期 自○○年○○月○○日 至○○年○○月○○日
	会社 ○○株式会社 印

注1) 用紙の大きさは名刺サイズ以上とする。

注2) 所属会社の社印とする。

【施工体制台帳等】

受注者は、工事等を施工するために下請負契約を締結した場合には、下請金額にかかわらず施工体制台帳を作成し、工場現場に備えるとともに、その写しを監督員に提出するものとする。

第6章 暴力団等の不当介入の排除等に関する特記仕様書

1 趣旨

この特記仕様は、本市が締結する契約等からの暴力団、暴力団関係者、

暴力団関係法人等（以下「暴力団等」という。）の不当介入を排除し、契約等の適正な履行を確保することに関し、必要な事項を定めるものとする。

2 用語

この特記仕様における用語は、津市の締結する契約等からの暴力団等排除措置要綱（平成27年津市訓第76号）において使用する用語の例による。

3 受注者等の義務

- (1) 本市の契約等の相手方及び下請負人等（以下「受注者等」という。）は、暴力団等と認められる下請負人等を使用してはならない。
- (2) 受注者等は、暴力団等と認められる資材販売業者から資材等を購入してはならない。
- (3) 受注者等は、暴力団等と認められる廃棄物処理業者が有する廃棄物処理施設及び廃棄物処理業者等を使用してはならない。
- (4) 受注者は、本市と締結した契約等の履行に当たり、受注者等が暴力団等による不当介入を受けたときは、断固としてこれを拒否し、直ちに本市に文書にて報告するとともに所轄の警察署に通報し捜査上必要な協力をするものとする。この場合において、捜査上必要な協力を行ったとき、受注者は速やかに本市に文書にてその内容を報告しなければならない。

なお、受注者等が不当介入を受けたことを理由に契約期間の延長等の措置が必要となったとき、受注者は本市に契約期間の延長等を求めることができる。

4 入札参加資格者等及び受注者等に対する措置

入札参加資格者等又はその役員等が暴力団等と認められるとき、暴力団等と密接な関係を有していると認められるときなどは、当該入札参加資格者等に対し、津市建設工事等指名停止基準（平成21年4月8日施行）に基づく指名停止措置を講じるものとする。

また、上記3の義務に違反した受注者等に対しても、同様に指名停止措置を講じるものとする。

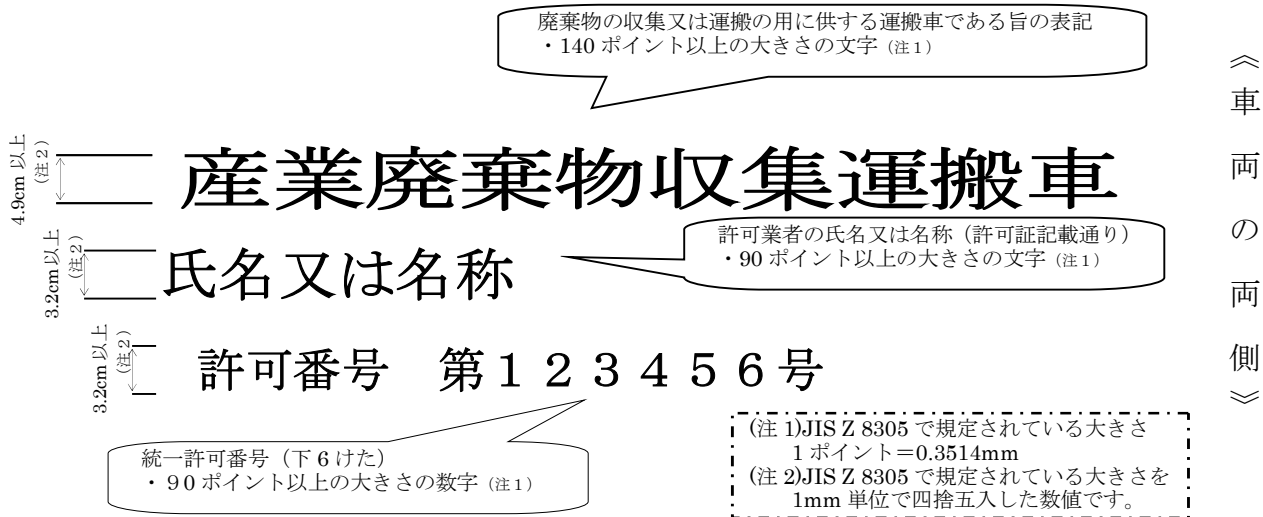
5 契約等の解除

上記の暴力団等と認められるときなどにより指名停止措置が講じられた入札参加資格者等との契約等については、これを解除することができる。

[産業廃棄物収集運搬車への表示・書面備え付け]

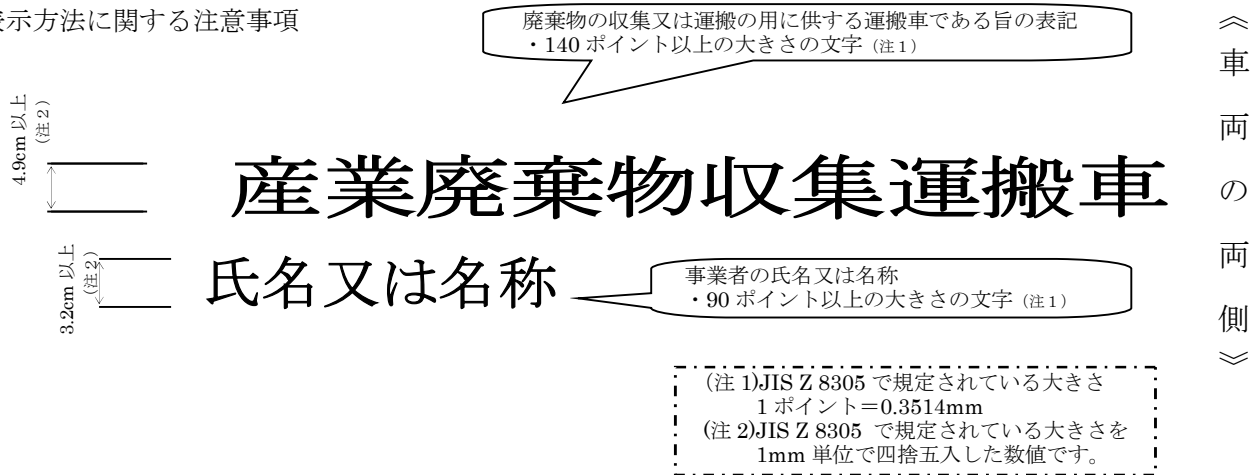
産業廃棄物の収集運搬に係る表示及び書面備え付けを行うものとする。

産業廃棄物（特別管理産業廃棄物）収集運搬業者の表示例



排出事業者が自ら収集運搬する場合の表示例

表示方法に関する注意事項



表示方法に関する注意事項

- ・車両の両側面（車体の外側）の見やすい位置にわかりやすいように表示すること。
- ・表示は車体に直接塗装するか、プレートを車体に釘で固定することが望ましい。やむを得ずステッカー、はめ込みプレート、マグネットにより着脱が可能な方法で表示を行う場合、ステッカー等の素材には風雨に耐えられるものを使用すること。また、走行中に破損したり、車体から外れたり、他者に容易に取り外されないようにすること。
- ・文字・数字には、車体・ステッカー等の色を考慮し、識別しやすい色を用いること。また、風雨でかすれたり、容易に書き換えられないようにすること。汚れ等が付着した場合は、ただちに取除くこと。

津市公契約条例に関する特記仕様書

1 趣旨

この特記仕様は、本市が締結する公契約において、労働者の労働環境の確保、優良な事業者の育成及び地域経済の健全な発展を図ることに関し、必要な事項を定めるものとする。

2 用語

この特記仕様における用語は、津市公契約条例（津市条例第22号）（以下「条例」という。）において使用する用語の例による。

3 受注者等の責務

- (1) 関係法令及び条例の規定を遵守しなければならない。
- (2) 受注者等は、労働者の適正な労働環境の確保に努めなければならない。
- (3) 受注者等は、労働者と対等な労使関係を構築するとともに、下請契約等を締結しようとするときは、下請契約等の相手方と対等な立場における合意に基づいた適正な契約を行わなければならない。
- (4) 受注者等は、下請契約等の相手方を選定するとき、又は資材等を調達するときは、地域経済の発展に配慮し、本市の区域内に主たる事務所を有する事業者又は本市の区域内で生産された資材等を活用するよう努めなければならない。
- (5) 受注者等は、公契約に携わる者として、社会的な責任を自覚し、公契約を適正に履行しなければならない。
- (6) 受注者等は、条例第7条第1項の規定に基づき市長又は上下水道事業管理者（以下「市長等」という。）が行う報告の求め及び立入検査その他本市が実施する公契約に関する施策に協力しなければならない。

4 公契約の解除等

市長等は、受注者等が次の各号のいずれかに該当するときは、当該公契約の解除、受注者等の指名停止等必要な措置を採ることができる。

- (1) 条例第7条第1項の規定による報告を怠り、若しくは虚偽の報告をし、又は同項の規定による立入検査を拒み、妨げ、若しくは忌避し、若しくは質問に対して応答せず、若しくは虚偽の回答をしたとき。
- (2) 条例第8条第1項の規定による命令に従わないとき。
- (3) 条例第8条第2項の規定による報告を怠り、又は虚偽の報告をしたとき。
- (4) (1)から(3)に掲げるもののほか、条例の規定に違反したとき。
- (5) 特定公契約にあっては、別紙誓約事項に違反したとき。

労働環境の確保に係る誓約事項

津市公契約条例（以下「条例」という。）第6条の規定により、下記事項について了承し、遵守することを誓約します。

また、誓約内容に違反があった場合等における関係機関への通報、指名停止、契約解除及び違約金徴収について異議はありません。

記

- 1 津市公契約条例施行規則第8条に掲げる関係法令（次項において単に「関係法令」という。）を遵守すること。
- 2 関係法令に違反し、関係機関から是正勧告等があった場合は、津市長又は津市上下水道事業管理者（以下「市長等」という。）へ報告すること。
- 3 条例第7条第1項の規定による報告の求め及び立入検査に対し、誠実に対応すること。
- 4 労働者が条例第9条第1項の規定による申出（以下「違反申出」という。）をしたことを理由に、当該労働者に対し、解雇その他の不利益な取扱いをしないこと。
- 5 労働者に対し、条例の内容について周知を行うこと。
- 6 労働者の賃金水準の引上げに関する措置が講じられる場合は、下請契約等の請負契約金額の見直し、労働者の賃金の引上げ等について適切に対応すること。
- 7 市長等が行う施策に協力すること。

ワンデーレスポンス実施に関する特記仕様書

1. この工事は、ワンデーレスポンス実施対象工事である。
「ワンデーレスポンス」とは受注者からの質問、協議等に対し、発注者は、基本的に「その日のうち」に回答するよう対応することである。
ただし、即日回答が困難な場合は、いつまでに回答が必要なのかを受注者と協議のうえ、回答期限を設けるなど、何らかの回答を「その日のうち」にすることとする。
なお、質問・協議等に当たっては、詳細な状況資料等を添えるものとし、内容によっては、根拠資料を揃えた提案を含むものとする。
2. 受注者は計画工程表の提出にあたって、作業間の関連把握や工事の進捗状況等を把握できる工程管理方法について、監督職員と協議をおこなうこと。
3. 受注者は三重県公共工事共通仕様書「1-1-3 設計図書の照査等」に基づき、適切に設計図書の照査を実施すること。
4. 受注者は工事施工中において、問題が発生した場合及び計画工程と実施工程を比較照査し、差異が生じた場合は速やかに文書にて監督職員へ報告すること。
5. 発注者が効果・課題等を把握するためアンケート等のフォローアップ調査を実施する場合、受注者は協力すること。

配慮依頼事項

受注者においては、この契約を履行するにあたって、下記のことについて御配慮いただくようお願いします。

なお、当該配慮依頼事項は、発注者である津市が受注者の自由な協力をお願いするものであり、受注者が津市のお願いに応じなかった場合に、受注者に対して、不利益を課すものではありません。

記

- 1 下請契約又は再委託（一次下請以降のすべての下請負人又は再委託者を含む。）が認められた契約にあつては、下請契約又は再委託等において市内本店事業者を活用することに配慮してください。
- 2 資材、原材料等の調達が必要となる場合は、市内本店事業者から調達すること及び地元製品、地元生産品を使用することについても配慮してください。
- 3 建設機械、機器等の借入れが必要となる場合は、市内本店事業者から借入れすることに配慮してください。
- 4 業務従事者等の使用人等が必要となる場合は、使用人等に市民を活用することに配慮してください。